

信頼の「かかりつけ医」100カ所

出生児の約1割を占める低体重児や、障害を持って生まれた赤ちゃんを継続サポートするため、小児科医でつくる「赤ちゃん成育ネットワーク」(事務局・兵庫県三田市)が、新生児集中治療室(NICU)などで経験を積んだ開業医約100カ所をホームページに掲載、公開を始めた。身近な「かかりつけ医」としてもいい、赤ちゃんのNICU退院後も、保護者の不安や通院の負担を軽くするのが目的。厚生労働省母子保

低体重、障害持つ赤ちゃん

退院後に強い味方

健康は「退院後の受け皿が不足しているのが現状」と言い、期待を寄せている。

出生時に2500g未満の低体重児は、全体の9.4%(04年度)を占める。低体重児や障害を持った赤ちゃんは合併症などの危険性があるが、NICUや新生児病棟を備えた医療施設から家が遠い場合、退院後の通院は赤ちゃんの体にも負担になり、病院の近くに

NICU経験医などHPで公開

引越す家族もいる。

掲載した開業医は大阪府、兵庫県、岡山県など37都道府県に及び、今後を増やして充実させる。

426名で生まれ、その後の心停止で障害が残った長男(2)を持つ兵庫県の母親(30)は「リスクを背負った子どもへの理解と知識がある医師が近くにいないと、緊急時はもちろん、普段から信頼して受診できる」と評価。同ネット事務局長の江原伯陽医師(52)は「NI

小児科医「成育ネット」

CUとパートナーシップを組み、地域の子育てネットワークの柱でありたい」と話す。アドレスは<http://baby-net.jp/>

【服部陽】

北島博之・大阪府立母子保健総合医療センター新生児科部長の話。NICUを経た小児科医は、お産から立ち会い、成長を見続けてきた経験があるため、地域社会でサポートするには不可欠な存在。地域から支える豊かな社会を作るためにも期待したい。